

えと えま さる
干 支 絵 馬 (申)

加藤庄一コレクションより／岡崎むかし館蔵

絵馬の起源は、神の乗り物である生き馬^{けんま}を献馬^{けんま}する風習^{ふうしゅう}によるとされ、それが馬形（土馬・木馬など）、さらに馬の絵の献上となり、絵馬が誕生したといわれます。すでに奈良時代から絵馬は見られ、室町時代末期には馬以外の図や大絵馬があらわれ、江戸時代中期には庶民の小絵馬奉納が盛んとなり、図柄も祈願内容や干支など多様となります。祈願者は絵馬屋（絵馬師）から絵馬を買って、名は書かず、歳（干支）と性別を記し、あるいは、自分の干支が描かれた絵馬に願文を記して奉納していたそうです。

現在でも、神社へ行くと合格祈願、家内安全、縁結びなど、様々な願い事を書いた絵馬が^つか懸けられています。多く見られる図柄はその年の干支です。神仏の^{れいげん}霊験や祈願の内容にかかわらず用いることができ、縁起物^{えんぎもの}としてお札やお守り破魔矢とともに神社から授与されています。人々の思いを神仏へ伝えるモノとして変わらずに用いられている絵馬ですが、奉納の仕方、図柄のあり方、祈願の内容など、時代に応じた変容が見られます。

（2016年は申年、縁起物として新年の干支である「申」の絵馬をご紹介します。）